



月号

ヤングミセス通信

日差しが日に日に強くなり、暑さを感じる季節になりました。

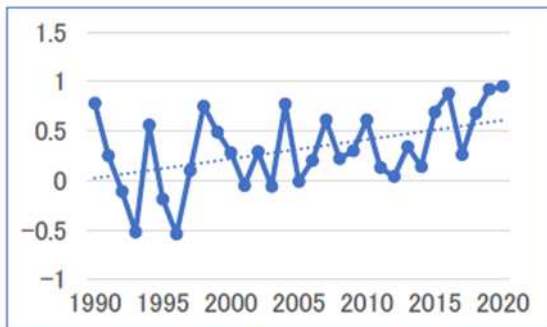
近年、「地球温暖化」のニュースをよく耳にします。感覚的にも、なんとなく、以前より夏が暑くなり、春や秋も暑くなったように感じます。温暖化の影響で、昔は見られなくなった草花や虫が増え、逆に最近見られなくなった生き物もいると思います。

身の回りで感じている身近な変化を観察し、家族と話し合ってみましょう。



「温暖化等の気候変動と病害虫の変化」

1 平均気温の上昇



日本の平均気温の基準値(1981~2010年の30年平均値)からの偏差(気象庁公表データから算出)

日本の年平均気温が1990年から2020年で上昇傾向があり、概ね0.5°C高くなっています。



2 全国(47都道府県)の病害虫防除所へのアンケート結果

温暖化等の気候変化に伴い生産現場で病害虫の発生や被害等に変化が生じていると感じる都道府県数：**46**

【変化の例】

- クモヘリカメムシ、果樹カメムシ、オオタバコガ、ヨトウムシ類などの暖地型の害虫の発生が**増加**し、**定着**が顕在化
- トビイロウンカやコブノメイガなどの海外飛来性害虫の飛来量、飛来頻度が**増加**、また飛来時期が**早期化**
- スクミリンゴガイや斑点米・果樹カメムシ類などの越冬個体数が**増加**
- ヨトウムシなどで**例年**にない発生**ピーク**が確認
- 秋期の気温が高く、ヤガ類などチョウ目害虫の発生期間が長期化
- 暖冬によるタマネギべと病の二次感染株の発生の早期化
- 令和元年の暖冬の影響でスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の越冬数が多く全国で発生が**増加**。
- 梅雨頃にトビイロウンカが中国大陸から多く飛来。9月の高温少雨で被害が**多発**。



クモヘリカメムシ



オオタバコガ成虫



オオタバコガ幼虫

3 病害虫の特色と被害状況

(1) スクミリンゴガイ (別名ジャンボタニシ)



左がオス、右がメス
メスの方が大きい
今までに見つかった最大の
個体は 80 mm (福岡県)

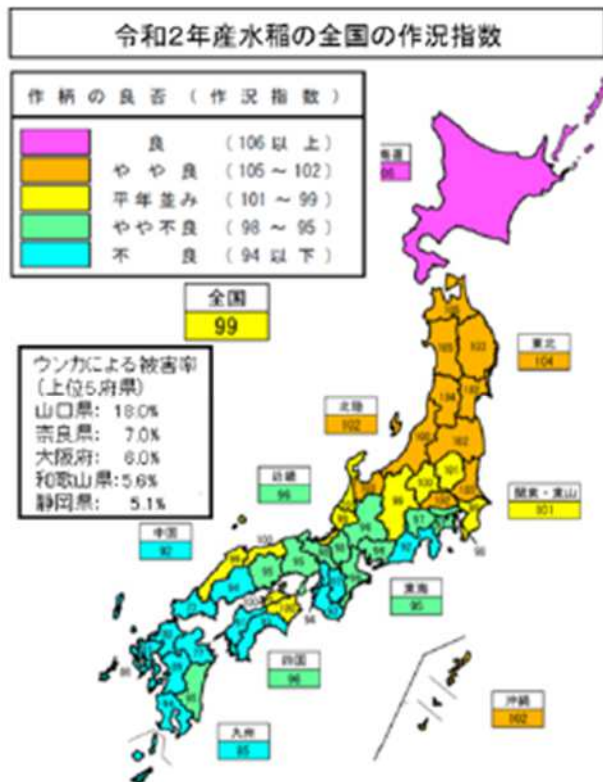


産卵直後の卵塊は
鮮やかなピンク色で、
孵化直前になると灰色
から白色に変色



食害を受けた田んぼ
イネ稚苗では、茎を食いち
ぎり、葉鞘を食害する。
他に食べ物がないと根まで
食い荒らす。

(2) トビイロウンカ



トビイロウンカの吸汁加害で「坪枯れ」が発生。
作柄が西日本で「やや不良~不良」



被害を受けて枯れた水稻



トビイロウンカ成虫

病害虫防除は、「**農薬によらない防除方法**」と「**農薬による防除方法**」を効果的に
組み合わせ、**農薬に過度に依存しない防除体系**を組み立てましょう。防除の手引及び
発生予察に関する情報を参考にして、適期防除に努めましょう。

☆出典

農林水産省：病害虫防除の現状と今後の総合的病害虫管理の推進について (R3. 8)
愛知県：病害虫防除の手引き2022、高知県：高知農業ネット、
農研機構：九州沖縄農業研究センター